

昔、笛の上手な若者が、天神崎の浜で笛を吹いていました。すると美しい女の子が現れ「私は海に住む狸<sup>しやうじやう</sup>の娘です。あなたの笛を聞きお会いしたくやってきました。もう一曲吹いて下さい。」とさきに頼むので、若者は望みのまま吹きました。娘は喜び「お礼に釣り道具を差し上げます。この釣糸は餌がなくても、欲しただけ魚が釣れます。」と髪の毛を一本抜き、先に釣針を付け若者に渡しました。

若者は半分疑いながらも、岩の間に釣糸を垂らすと魚が思うままに釣れました。若者が釣りをした場所は、今も天神崎で「狸々」と呼ばれています。

# 人生

## 笛の音色に魅せられた娘

日々



●天神崎

貴重な自然が残された岬で、磯遊びでは様々な生物を観察できる。 田辺市天神崎地内



●田辺祭

毎年 7 月 24 日、25 日に行われる関鶏神社の例祭で、街をあげての賑わいとなる。衆町の笠鉾には狸々が乗っている。



寄り道ぐるめ



「江川のちゃんぽん」

天神崎近くの漁師町・江川に複数店舗あるB級グルメ。そばとうどんの2種類のめんを一緒にまぜて焼いたちゃんぽん。うどんのモチモチ感と細いそばのマッチングが絶妙で、ボリューム満点。

三尾<sup>みお</sup>に住む肌の黒い娘が毎朝「白くなりたい」と御崎<sup>みさき</sup>の神様に祈っていると、神様が夢に現れ「三週間水垢離<sup>みずかじ</sup>をするように」と言いました。

お告げどおり海に入り祈り続け、とうとう満願の日。無数の海猫が飛んできて、真っ白な糞を娘に落とし、海で流したところ、肌が白くなったのです。

しかし、娘はより白くなりたいと海猫の糞を浴びては流すことを続けましたが、ある日娘は島から帰ってきませんでした。

白くなりたいという乙女心が募り、島の一部になてしまったのです。この乙女心を憐れみ弁財天<sup>まう</sup>が祀られたことから、弁天島と呼ばれています。

べんてんじま

おとめ

# 弁天島の乙女



●弁天島(海猫島)  
日本でも数少ない海猫の繁殖地。3～8月頃に海猫の姿を見ることができ、近年、飛来数は減少してきている。  
美浜町三尾地先



寄り道ぐるめ

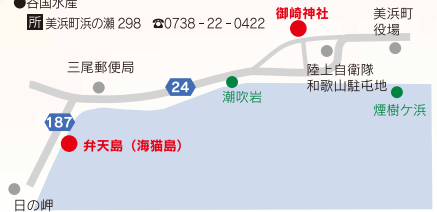
「釜揚げしらす」

江戸時代から続く「地曳網漁」でとった締籠で美味しいしらす。  
●(株)財文水産  
美浜町吉原 922 ☎0738-22-0169  
●谷国水産  
美浜町の瀬 298 ☎0738-22-0422



●御崎神社

弁天島の乙女が白くなりたいと祈った御崎の神様が祀られている。  
美浜町和田 1788-1 ☎0738-22-4563



「潮吹岩」

海水の浸食作用によってできた岩。波の荒い時などは鯨の潮吹きに似た現象が見られる。  
美浜町和田地先



「煙樹ヶ浜」

幅約500m、長さ約4.5kmに及ぶ大松林。紀州藩主徳川頼宣公が伐採を禁止したため、今なお見事な松林が残っている。  
美浜町和田地先

寄り道すぽろ